



はたららくネット



仙台市では、より多くの方々に障害のある方の就労について理解を深めていただけるように、平成21年度から、積極的に障害者雇用に取り組んでいる事業者を「障害者雇用貢献事業者」として表彰を行うとともに、その取り組み事例を紹介しております。令和3年度においては、株式会社サンマリ、株式会社仙台銀行、株式会社つばめマネジメント、株式会社デジタルハーツプラス仙台オフィス、東北電力フレンドリー・パートナーズ株式会社、楽天ソシオビジネス株式会社エリア事業部仙台エリアチームの6社が表彰を受けました。

本号から順次、各社の取組をご紹介しますが、今回は、表彰事業者6社の中から、株式会社デジタルハーツプラス仙台オフィスと株式会社つばめマネジメントの2社の取り組みをご紹介します。

●株式会社デジタルハーツプラス 仙台オフィス

〔仙台市若林区〕



管理者の方々。(右端が瀧原さん)

設立： 令和元年 10月1日
代表者： 代表取締役社長 殿村 裕誠
事業内容： ゲームデバッグ・テストサービス
 サイバーセキュリティ事業
雇用状況： 身体障害者 1名、精神障害者 15名
 (※雇用状況は仙台オフィス、令和4年7月現在)

株式会社デジタルハーツプラスは、ゲーム機やスマートフォンのゲーム開発段階で、エラーや不具合を見つけて、ゲームの完成度を上げる仕事(デバッグ)を主として行う株式会社デジタルハーツホールディングスの子会社です。

平成27年に障害のある方の専門部署として発足し、令和元年に特例子会社となりました。「異能が活躍するプラットフォーム」というビジョンを掲げ、様々な困難があっても突出した能力でデジタル社会の安心と安全を守る人材として活躍できる場所を目指しています。仙台オフィスでは現在、障害のある方16名が親会社の業務を担い、管理者4名が支援に当たっています。

同社は、3つの点に力を入れています。1つ目は、支援機関との連携を重視していることです。同社は手厚い支援を提供していますが、それでも社内の人に話しにくいことは出てきます。そうした話や家庭の事情、プライベートな悩みなどを聞いてもらったり、福祉の専門職の視点で体調管理などをサポートしていただいたりすると、障害のある方は安心して仕事に取り組むことができます。

2つ目は、1か月という長い実習期間を提供していることです。障害のある方はリーダーの指示を受け、顧客から依頼を受けた実際の案件を担当します。1日8時間、通常は週2、3日から実習を開始し、徐々に日数を増やします。1か月の間には、仕事でも生活面でも不調になることがあります、「できた」という手応えを感じて困難を乗り越えられるよう、きめ細かな支援を行っています。

3つ目は、様々な変化に対応する能力を身に付けることを重視した定着支援です。会社に勤めていると、職場環境や人間関係、業務内容などが変化していきます。就労定着支援を受けられる3年の間に、障害のある方がそうした変化に対処する術を習得できるようにサポートしています。

オフィスマネージャーの瀧原宏行さんは、「創業時からデジタルハーツでは、不登校や引きこもりの経験者、障害者手帳を持っている方々が働いていました。デジタル社会の安心と安全を守る仕事は、高い集中力を持って地道に取り組む必要があり、特性のある方が力を発揮できる分野です。『働きづらい、生きづらい彼らの輝ける場所になる』という創業者の思いを受け継ぎ、今後も多様な人材の確保を図りたいと考えています。また、そうした方々が活躍できる場所を提供し続けたいです」と力強くお話をされていました。

今年6月に入社した F・TさんとI・Kさんにお話を聞きました。 おふたりとも精神障害があります。



F・Tさん

実習を経験して得た気付き

就労継続支援B型事業所に通所していたときに実習のを知り、体調が安定してきたこともあり、参加することにしました。実習を通じて、働くための体力があると分かりました。一方で、他の人に話しかけたり、聞いたりするのが苦手だとも分かり、質問内容を予め頭の中で整理する、メモしておくなどするようにしました。実習中に張り切りすぎて調子を悪くしたこともありましたが、入社後はその経験を生かし、落ち着いて、自分のペースを守り、休憩や睡眠もしっかりとるようにしています。実習が長かったからこそこの気付きだと思います。職場の環境に慣れ、体調を大きく崩すことなく、これからも勤務を続けられればと思っています。

I・Kさん

挑戦できる場

就労移行支援事業所から紹介を受けたとき、挑戦できる場だと思い、実習に参加しようと思いました。実習を経て、自分は作業手順を理解することができ、ある程度の対人能力もあると思いました。一方で、動きのある画面を見続けると、体調が悪くなるのが分かり、今は動きの少ない案件を担当させてもらうという配慮を受けています。入社して、無理をしないための匙加減、体調の見極めが難しいと感じています。不調時はギアを下げ働いたり、休憩したりするようにしています。直近の目標は、仕事を覚えて会社に戦力としてカウントされるようになることです。将来的にはリーダーになり、正社員として登用されたいです。



6年以上働いているA・Kさんにもお話を聞きました。

発達障害(注意欠陥多動性障害)があります。

働き続けるために

相談する側だったのが、最近はベテランとして相談される側になり、教える機会も多くなってきました。

新しく入って来る人を見ていると、最初は皆、大変そうです。でも、1年くらいで落ち着くので、周囲が働き始めの時期を支えてあげるのが大事だと思います。私自身は相談するのが苦手でしたが、徐々にそれができるようになり、安定しました。たとえ悩むこと

があっても、真剣に話を聞いてくれる人がいるので、すぐに問題が解決しなくても、気持ちが落ち着きます。会社が楽しくて、あっという間に1日が終わる、「これが定着なのかな」と感じています。

働くための最初の一步を踏み出すには勇気が要りますが、サポートをしてくれる仕組みがたくさんあるので、流れにまかせると、うまくいくこともあります。これまでたくさんのサポートを受けたこと、そして今も受けていることを、「全部ありがたいな」と思っています。

A・Kさん



●株式会社つばめマネジメント (仙台市宮城野区)



設立：平成14年7月29日
代表者：代表取締役 禹文吉
事業内容：娯楽施設の運営管理
雇用状況：身体障害者2名
知的障害者3名
精神障害1名
(令和4年7月現在)

宮城、福島、栃木の3県で5つの娯楽施設(パチンコ店)を経営している株式会社つばめエイジェンシーの関連会社です。

株式会社つばめエイジェンシーはもとも福島県浪江町に本社がありましたが、東日本大震災後、同県内の5店舗を休業し、同県郡山市にいったん移転した後、平成31年1月からは仙台市宮城野区に本社を置いています。

関連会社として、店舗の運営管理を担う株式会社つばめマネジメントは、12年ほど前に障害のある方の雇用を開始しました。当初から各店舗に1名から2名の障害のある方を雇用することを目指しており、現在は計6名の障害のある方が清掃の仕事をしています。



つばめグループ
イメージキャラクター
「ダイちゃん」

同社は、障害特性に応じた配慮に加え、個性や思いに寄り添った対応もしています。特徴的な支援のひとつが、「相談ノート」です。聴覚に障害がある方とは、「相談ノート」を利用し、筆談でコミュニケーションを取りました。ダウン症のため、字を書くのが難しい方には、心情を表した絵を描いてもらい、気持ちの理解に努めました。

障害のある方々が安心して働けるように、障害者職業生活相談員(以下、相談員)の資格取得も勧めています。現在、本社3名、店舗2名の計5名が資格を取得し、支援に当たっています。店舗の相談員は、他の従業員に障害のある方の特性を知らせたり、課題に応じた工夫をしたりして、障害のある方が現場でスムーズに働けるようにサポートしています。店舗の相談員は本社の相談員と情報共有や連携を図り、会社全体として障害のある方々の就労を支えています。

過去には障害者職業センターに職場適応援助者(ジョブコーチ)による支援を依頼したこともあり、それがきっかけで、店舗ごとの清掃業務のマニュアルの整備をするようになりました。出勤したら、どこに、どの掃除道具を持って行き、どのように掃除をするのか、拭き方はやさしくか、強くかなど、ともに清掃業務に当たる従業員が考え、本社の相談員が中心になって文章化し、分かりやすいマニュアルを各店舗に準備しました。

株式会社つばめエイジェンシーは、「働く」とは「傍(はた)」を「楽にする」こと、「働きながら誰かを楽しくすること」と捉え、児童養護施設の子どもたちにクリスマスプレゼントを贈ったり、地域の伝統行事に協賛したりするなど、地域や社会に貢献し、楽しみを届けています。

親会社のそうした理念のもと、関連会社の株式会社つばめマネジメントは、今後も相談員の数を増やし、障害者雇用を積極的に進めていく予定です。

長く障害者雇用に関わっている課長の荒井優さんには、強く記憶に残る思い出がいくつかあります。そのひとつが、精神障害のある方のケースです。短時間から働く時間を少しずつ増やしたり、遅い時間を避けたシフトを組んだりといった様々な配慮の結果、徐々に勤務状況が安定していきました。その結果、叶えたい夢を持つようになり、新しい仕事に挑戦するため退職に至ったものの、退職時には、自分に合った働き方をさせてもらったことについての感謝の言葉があり、「長年、お世話になりました」というお礼も伝えられました。

荒井さんは、「障害のある方も年齢を重ねていくので、新たな課題が出てくることがあります。全てにうまく対応できたわけではありませんが、感謝の言葉を聞けると、やってきて良かったと思います。これからも、そうした課題に対応できるよう頑張りたいです」と熱く語っておられました。



発行：仙台市障害者就労支援センター「はたらポート仙台」

(指定管理者：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会)

住所：仙台市泉区泉中央2丁目1-1 泉区役所東庁舎5階

電話：022-772-5517 FAX：022-772-5519

Mail：info@sendai-wsc.jp HP：https://www.sendai-wsc.jp

